



実用新案登録願 (2)

登録番号 DOCUMENT-G  
STEVEN M. KASSUBA  
App/Ser No. 09/919,277  
Filed: JULY 31, 2001  
Group Art: 3725  
Exam. W. DONALD BRAY

昭和 52 年 月 日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称

デョークラツシヤト歯板

2. 考案者

フリガナ フワグンタルイチヨウオサオオモチノ  
住所 (居所) 岐阜県不破郡垂井町表佐大持野 5 8 の 2  
フリガナ コウテツコウシヨ ナイ  
氏名 株式会社 郷鉄工所内  
フリガナ ヤマ ダ ヨシ アキ (ほか 名)  
氏名 山 田 宣 秋

3. 実用新案登録出願人

フリガナ フワグンタルイチヨウオサオオモチノ  
住所 (居所) 岐阜県不破郡垂井町表佐大持野 5 8 の 2  
フリガナ コウテツコウシヨ ナイ  
氏名 (法人にあっては名称) 株式会社 郷鉄工所内  
氏名 (および代表者の氏名) ハヤシ モリ オ  
(国籍) 取締役社長 林 森 大  
(ほか 2 名)

4. 代理人 〒 500 (TEL 0582-64-0040 (0))

住所 岐阜市弥八町16番地

氏名 (4334) 武 藤 六 三 郎

52 074160

(ほか 3 名)

明 細 書

1. 考案の名称

チョークラッシャーの歯板

2. 実用新案登録請求の範囲

偏心軸(5)に揺動自在に挿嵌されたスイングジョー(3)に固設した動歯板(2)と、該動歯板(2)にはさみ角(4)をもつて対向する如くクラッシャー本体(1)に固設した固定歯板(6)を有するチョークラッシャーに於て、動歯板(2)と固定歯板(6)の対向する夫々の破碎面(8)(9)に適間隔をおいて適形状の突起体(10)(11)を規則的又は不規則的に突設したことを特徴とするチョークラッシャーの歯板。

3. 考案の詳細な説明

本考案は破碎時に動歯板と固定歯板間で被破碎物が「すべり」を起さない様に、夫々の歯板の破碎面に規則的又は不規則的に突起体を設けたことを特徴とするチョークラッシャーの歯板に関するものである。

従来スクラップ廃物等をチョークナッシャーに

55-1680.1

て破碎する際、第1図(イ)、(ロ)に示す如き岩石、鉱石等を破碎すると同様な歯板（動歯板及び固定歯板）を使用しているため、被破碎物と歯板との間に「すべり」が頻発して破碎が困難となり、その都度被破碎物を人手によつて取り出して始末をしているため、能率が悪くかつ危険度が高い欠点があつた。

この「すべり」を防止するためには、動歯板の動きを固定歯板に対して直角に近くなるようにして上方向の破碎分力を小さくすればよく、はさみ角(イ)を小さく（例えば通常のチョーククラッシャーは20度位であるが、この角度を10度位にする）すればよいが、同じ投入口の巾(ロ)を保とうとすれば、クラッシャーの高さが高くなり、構造上不安定になると共に機械の価格が高くなる欠点がある。

本考案はこれ等の欠点を除去し、破碎時の被破碎物の「すべり」を防止すると共に破碎を容易とすることを目的とした考案に係るもので、その構成を図に示す実施例によつて説明すると、クラッ

シヤ－本体(1)内には前面に動齒板(2)を固設したスイングジョー(3)が、該クラツシヤ－本体(1)の両側壁(4)(4)の上部に架設した偏心軸(5)に揺動自在に挿嵌され、固定齒板(6)は前記動齒板(2)に適角度のはさみ角(4)をもつて対向して本体(1)の前壁(7)に固定され、動齒板(2)と固定齒板(6)は対向する夫々の破砕面(8)(9)に適間隔をおいて適形状（図は角錐状の場合を示す）の突起体(10)を、規則的又は不規則的に複数個突設して齒板を構成するものである。

次に本考案の作用を説明すると、破砕時に於てスイングジョー(3)は頂部の偏心軸(5)の回転と、下端部に取り付けられたトッグルプレート(11)の揺動との総合運動により複雑な形の負荷を動齒板(2)と固定齒板(6)に与えるが、夫々の齒板(2)(6)に設けた突起体(10)(10)…により集中的に一点圧力が被破砕物に加えられ、楔作用によりくい込み易くなり、被破砕物の「すべり」が防止されて破砕が容易となる。

即ち本考案の齒板を設けたデョークラツシヤ－は、上方にすべろうとする被破砕物が各齒板に突

特許  
公報

図 4

設した突起体にひつかゝり「すべり」が阻止され該突起体により集中的一点圧力が被破碎物に加えられ、楔作用によりくい込み易くなり破碎が容易となり、従来の歯板の様に上下、左右に連続した凸条の稜線を持たないので、例え一度「すべり」現象が生じてもその破碎位置が変化するため破碎能力が低下することがない等の効果を有すると共に、連続破碎が可能で能率が著しく向上する等その実用的効果は極めて大きいものである。

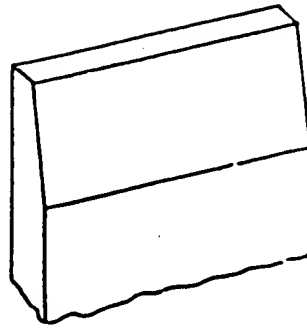
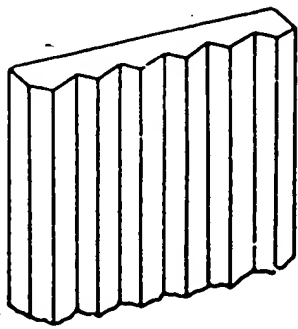
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図(1)(2)は夫々従来の歯板の部分斜視図、  
第2図は本考案の歯板の部分斜視図、第3図は歯板に設けた突起体の一実施例を示す拡大斜視図、  
第4図は本考案を使用したデョークラッシャーの概要図である。

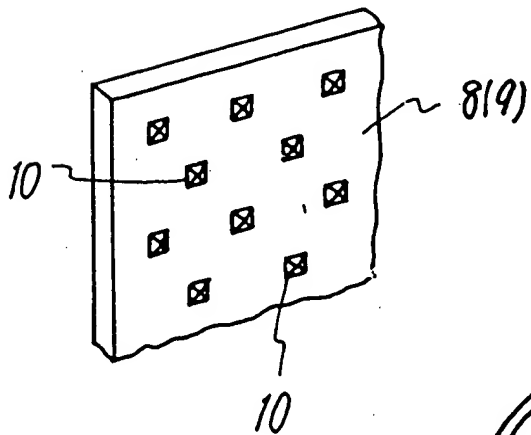
- |              |            |
|--------------|------------|
| (1) クラッシャー本体 | (2) 動 歯 板  |
| (3) スイングジョー  | (5) 偏 心 軸  |
| (6) 固 定 歯 板  | (8) 破 碎 面  |
| (9) 破 碎 面    | (10) 突 起 体 |

以 上

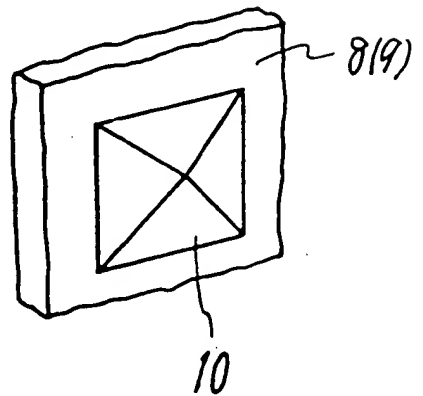
第 1 圖



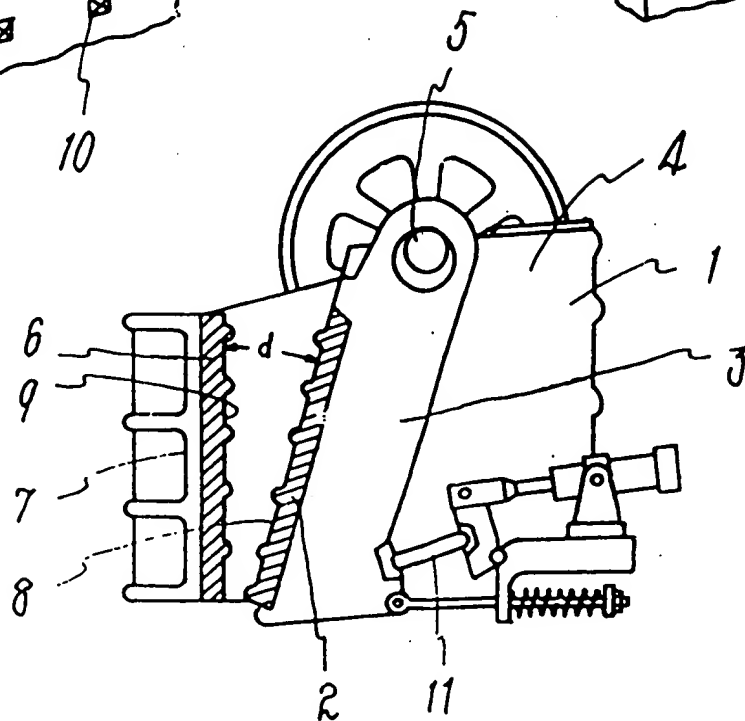
第 2 圖



第 3 圖



第 4 圖



16801  $\frac{1}{2}$